

## 審美的に好ましいスマイルと顎顔面形態との関連

### 【研究対象者の方へ】

本研究は、(1)九州大学病院矯正歯科にて治療のため来院され、2009年4月1日から2014年3月31日までに動的矯正治療を終了し、審美的に好ましいスマイルを有すると判断された女性(16歳から30歳)30名程度の顔面写真および側面頭部エックス線規格写真画像(2)コントロール群として、九州大学歯学部学生およびスタッフで、骨格的に正常な上下顎関係を有し、正常咬合を有するボランティア(20歳から30歳の女性)30名程度の当教室にて保管されている側面頭部エックス線規格写真画像(2000年4月1日から2005年3月31日に撮影)を対象として研究させていただきます。対象者となることを拒否される方は、下記連絡先までご連絡下さい。

### 【はじめに】

顔の審美性は、その顔貌を有する個人における個性の育成や社会的交流を円滑に行う上で、大きな影響を及ぼすといわれています。特にスマイル時の口元がその個人にとってバランスのとれた魅力的なものであるかが、精神心理面に与える影響は大きく、社会生活におけるQOL向上のためにも最近注目されてきています。また、矯正治療患者さんの主訴は審美性の改善にある場合が多く、矯正治療を計画する上で、咬合の改善はもちろんのこと、口元、特にスマイルに関する評価を行うことは重要なことです。しかしながら、魅力的なスマイルを有する人の歯の上下的および水平的位置や前歯の骨格に対する角度など詳細については明確ではありません。これらを踏まえ、矯正治療後に美しいスマイルを有する顎顔面形態の特徴を明らかにすることは、患者さんに満足される治療結果を得るために重要です。

### 【研究内容】

これまでの研究より、矯正治療後に審美的に好ましいと判定されるスマイルを有する患者さんを対象者とします。側面セファロ分析により患者群とコントロール群の歯の上下的および水平的位置や前歯の骨格に対する角度などの顎顔面形態を詳細に比較検討します。これらのデータより、矯正治療後に審美的に目標とすべき歯や顎骨の位置についての情報が得られると考えます。

### 【患者さんの個人情報の管理について】

個人情報は匿名化し、本研究の実施過程およびその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

### 【研究期間】

研究を行う期間は2016年3月31日までと考えています。

**【医学上の貢献】**

矯正治療後に審美的に好ましいスマイルを有する顎顔面形態の特徴を精査し、明らかにすることは、患者さんに満足される治療結果を得るために重要であると考えます。

**【研究機関】**

九州大学大学院 歯学研究院 歯科矯正学分野

教授 高橋 一郎

九州大学病院 歯病 矯正歯科

講師 五百井 秀樹

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

Tel 092-642-6462

連絡先担当者：五百井 秀樹